

ジオサイトの評価とその活用—三陸ジオパークを例として

The evaluation of geosites in Sanriku Geopark

*長田 翔¹、高木 秀雄²

*Sho Nagata¹, Hideo Takagi²

1. 早稲田大学教育学部理学科地球科学専修、2. 早稲田大学教育・総合科学学術院

1. Waseda University, 2. Department of Earth Science, Faculty of Education and Integrated Arts and Sciences, Waseda University

目的：国内最大の面積をもつ三陸ジオパークは、北部、中部、南部ブロックに区分されており、幅広いジオの多様性を有するとともに、津波被災遺構を活用した防災教育も重要視されている。協議会で選定されている合計48ジオサイト（旧定義）の中から特に地質・地形および津波に関連した36ジオサイトを選び、新たな定義のもとで細区分された中から合計65ジオサイトを選択した。それらについて、ジオサイトの評価法(Suzuki and Takagi, 2017)を用いて、6つの主項目（教育的価値、科学的価値、観光価値、安全性とアクセス、保護・保全とサイトの持続可能性、情報の整備状況）からなる評価を実施した。その結果をもとに三陸ジオパークおよび各ジオサイトの現状を分析するとともに、今後の改善の方策の構築のための基礎資料とする。

背景：2011年3月の東北地方太平洋沖地震で甚大な津波災害を受けた三陸ジオパーク候補地は、2013年にジオパーク活動を復興に役立てることが期待されて日本ジオパークに認定された。その後2017年の再認定審査で条件付き再認定となったことから、2019年に予定されている再認定審査に向け整備が進められている。

結果：上記6主項目について各々3つずつの副項目の合計18項目を4段階評価で採点し、3副項目の平均値を主項目の点数として、正六角形のレーダーチャートに示した。また、6主項目を色分けして合算した棒グラフで、ジオサイトごとの評価を示した。24点満点の中で、特に優れているジオサイトを20点以上とした場合、北から7 大野海成段丘, 9-1 鏡岩, 11-1 琥珀, 13 野田玉川鉱山跡, 14 黒崎, 15-1 普代水門, 18-1 北山崎, 18-2 鶴の巣断崖, 19-1 明戸海岸防潮堤, 22-2 龍泉洞, 23-1 浄土ヶ浜, 23-3 日出島, 25-2 たろう観光ホテル, 32-1 蓬萊島, 33釜石鉱山, 44-1高田松原の一本松, があげられる。一方15点未満の早急に対応が必要なジオサイトとしては、2-4 白岩, 4-2 寺下の滝, 20 P-T境界層, 21-2 原地山層と宮古層群の不整合, 37-2 大森林道沿いの古生界露頭, 38-2 門之浜の防潮堤, 43-1 氷上花崗岩と壺の沢変成岩, 43-2 長部礫岩と気仙川花崗岩, などがあげられる。

結論：今回の調査で、次の課題が浮かび上がった。

1. 個人でジオサイトを訪れようとしても、詳細な位置や道筋に関する情報がない場合が少なくない。
2. 個々のジオサイトの場所および名称を、新しいジオサイトの定義に則り、ある程度狭い範囲に設定すべきである。例えば、37-2 大森林道沿いの古生界露頭, 43-1 氷上花崗岩などの名称では、どこに行ったら良いジオサイトが見られるのか、見当もつかない。

これらを踏まえて、位置情報を明確に示したジオパークの統一規格のパンフレットやガイドマップを整備して、三陸ジオパークとしての連携と一体感を醸成することが重要と考える。

文献：Suzuki, D. A. and Takagi, H., 2017, *Geoheritage*, 10, 123-135.

キーワード：ジオサイト、評価、ジオパーク、三陸ジオパーク

Keywords: geosite, evaluation, geopark, Sanriku Geopark